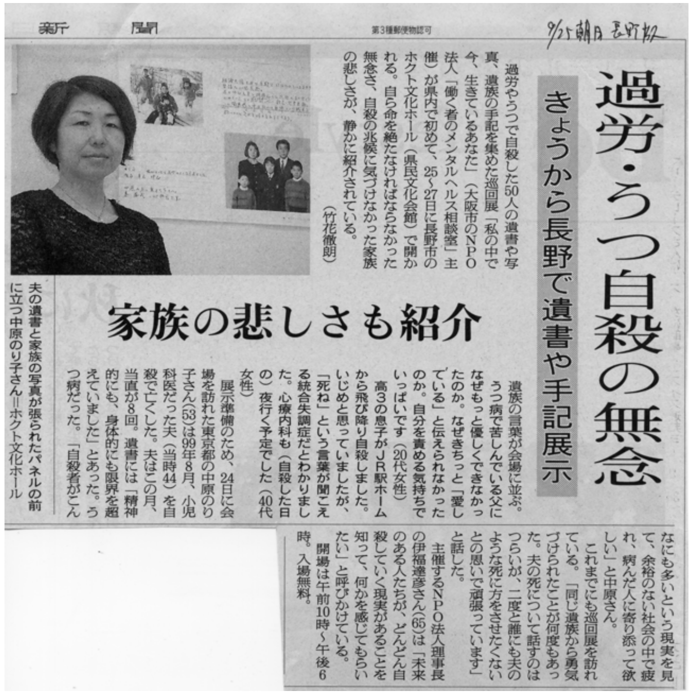
第14回パネル展　長野

2009年9月

会場のホクトホール

NHK長野の取材



9/25朝日 長野版

過労・うつ自殺の無念

きょうから長野で遺書や手記展示

過労やうつで自殺した50人の遺書や写真、遺族の手記を集めた巡回展「私の中で今、生きているあなた」（大阪市のNPO法人「働く者のメンタルヘルス相談室」主催）が県内で初めて、25〜27日に長野市のホクト文化ホール（県民文化会館）で開かれる。自ら命を絶たなければならなかった無念さ、自殺の兆候に気づけなかった家族の悲しさが、静かに紹介されている。（竹花徹朗）

夫の遺書と家族の写真が張られたパネルの前に立つ中原のり子さん＝ホクト文化ホール

家族の悲しさも紹介

遺族の言葉が会場に並ぶ。

うつ病で苦しんでいる父になぜもっと優しくできなかったのか。なぜきちっと「愛している」と伝えられなかったのか。自分を責める気持ちでいっぱいです（20代女性）

高3の息子がJR駅ホームから飛び降り自殺しました。いじめと思っていましたが、「死ね」という言葉が聞こえる統合失調症だとわかりました。心療内科も（自殺した日の）夜行く予定でした（40代女性）

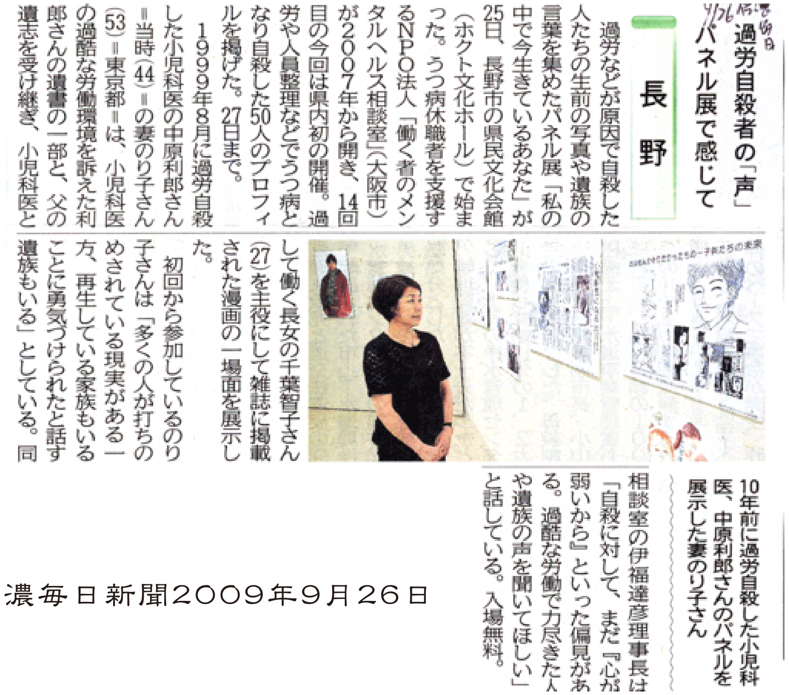
展示準備のため、24日に会場を訪れた東京都の中原のり子さん(53)は99年8月、小児科医だった夫（当時44）を自殺で亡くした。夫はこの月、当直が8回。遺書には「精神的にも、身体的にも限界を超えていました」とあった。うつ病だった。「自殺者がこんなにも多いという現実を見て、余裕のない社会の中で疲れ、病んだ人に寄り添って欲しい」と中原さん。

これまでにも巡回展を訪れている。「同じ遺族から勇気づけられたことが何度もあった。夫の死について話すのはつらいが、二度と誰にも夫のような死に方をさせたくないとの思いで頑張っています」と話した。

主催するNPO法人理事長の伊福達彦さん(65)は「未来のある人たちが、どんどん自殺していく現実があることを知って、何かを感じてもらいたい」と呼びかけている。

開場は午前10時〜午後6時。入場無料。

朝日新聞2009年9月25日



9/26 信濃毎日

過労自殺者の「声」パネル展で感じて

長野

過労などが原因で自殺した人たちの生前の写真や遺族の言葉を集めたパネル展「私の中で今生きているあなた」が25日、長野市の県民文化会館（ホクト文化ホール）で始まった。うつ病休職者を支援するNPO法人「働く者のメンタルヘルス相談室」（大阪市）が2007年から開き、14回目の今回は県内初の開催。過労や人員整理などでうつ病となり自殺した50人のプロフィルを掲げた。27日まで。

1999年8月に過労自殺した小児科医の中原利郎さん＝当時(44)＝の妻のり子さん(53)＝東京都＝は、小児科医の過酷な労働環境を訴えた利郎さんの遺書の一部と、父の遺志を受け継ぎ、小児科医として働く長女の千葉智子さん(27)を主役にして雑誌に掲載された漫画の一場面を展示した。

初回から参加しているのり子さんは「多くの人が打ちのめされている現実がある一方、再生している家族もいることに勇気づけられた」と話す。同相談室の伊福達彦理事長は「自殺に対して、まだ『心が弱いから』といった偏見がある。過酷な労働で力尽きた人や遺族の声を聞いてほしい」と話している。入場無料。

10年前に過労自殺した小児科医、中原利郎さんのパネルを展示した妻のり子さん

信濃毎日新聞2009年9月26日